明大教職員・校友の刊行物案内

本欄は、中央図書館（駿河台）の特別コレクションである「明大文庫」に寄贈された、教職員、校友の著書の中から、一般に入手可能な図書を紹介します。本体価格は、消費税が別途加算されます。

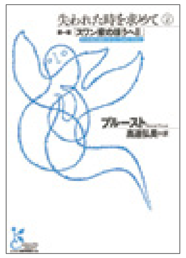
本号執筆者 **柴尾 晋**
（図書館総務事務室／本誌編集委員）

中央図書館では、本学関係者の著作物を収集して保存しています。寄贈にご協力お願いいたします。

光文社（光文社古典新訳文庫　KA フ4-3）

失われた時を求めて②
―第一篇「スワン家のほうへⅡ」―

プルースト著　高遠 弘美訳　2011年12月刊　本体1,105円



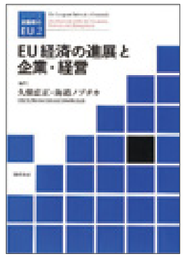
たかとお・ひろみ
（商学部専任教授）
著書に『プルースト研究』など多数。

「スワン家のほうへ」第2部「スワンの恋」と第3部「土地の名・名」の全訳である。パリ上流社交界の寵児スワンの、恋人である高級娼婦オデットとの恋愛心理を鋭く描く。訳者による文体の流麗さが遺憾なく発揮され、読者は時間を忘れ読み進めてしまうに違いない。

勁草書房（シリーズ激動期のEU 2）

EU経済の進展と企業・経営

久保 広正編著　風間 信隆、清水 一之ほか執筆
2013年2月刊　本体3,500円



かざま・のぶたか
（商学部専任教授）
しみず・かずゆき
（経営学部専任准教授）

本書は、経営学の視点から政策・産業、コーポレート・ガバナンス、経営理論にそれぞれ焦点を当て、変革の時代のEU経済の動きと企業経営の実態を解明する。EUがユーロ危機をどのように克服して持続可能な成長を目指しているのか、その具体的方向性を論究する。

日本都市センター（日本都市センターブックレット）

欧米諸国にみる大都市制度

日本都市センター編　笠 京子ほか執筆　2013年3月刊　本体500円

りゅう・きょうこ
（専門職大学院ガバナンス研究科専任教授）

本書は、都市自治制度研究会が平成24年に実施した「欧米諸国の都市自治制度及びその運用実態に関する現地調査」をまとめたものである。この調査では「大都市における都市内分権」などを調査テーマとし、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツの欧米5カ国を対象とした。

高文研

日本は過去とどう向き合ってきたか
―「河野・村山・宮沢」歴史三談話と靖国問題を考える―

山田 朗著　2013年9月刊　本体1,700円

やまだ・あきら
（文学部専任教授）
著書に『軍備拡張の近代史』など多数。

人間は、自分自身の体験以外から学ぶことができる唯一の動物であるが、残念ながら失敗を繰り返さないとは言えない。現代に生きる我々は、過去の過ちを反省し、平和のために近現代史を再確認することが重要である。本書は、河野・村山・宮沢の歴史三談話と靖国問題について論究する。

日本経済評論社

軍縮と武器移転の世界史
―「軍縮下の軍拡」はなぜ起きたのか―

横井 勝彦編著　2014年3月刊　本体4,800円

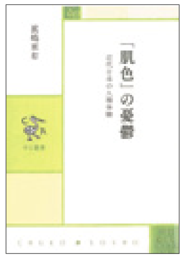
よこい・かつひこ
（商学部専任教授）
著書に『アジアの海の大英帝国』など多数。

2015年に総合的な歴史研究を通じ、軍縮と軍備管理を阻む近現代世界の構造を明らかにすることを目的として、本学に「国際武器移転史研究所」が設立された。本書は、武器移転の歴史に着目し、軍拡・軍縮・再軍備の世界史的全体構造を解明する意欲作である。

中央公論新社（中公叢書）

「肌色」の憂鬱
―近代日本の人種体験―

眞嶋 亜有著　2014年7月刊　本体2,300円



まじま・あゆ
（国際日本学部専任講師）

明治以降、わが国は近代化（西洋化）を追求し、日露戦争勝利後は、「一等国」の地位を獲得するまでになった。本書では、近代日本におけるエリートたちの体験を通して、「黄色人種」であることの居心地の悪さ、人種的排除など、肌の色の問題を正視することで、日本近現代史を捉え直す。

青土社

夢想と身体の人間博物誌
―綺想と現実の東洋―

張 競著　2014年8月刊　本体2,400円

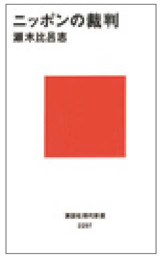
ちょう・きょう
（国際日本学部専任教授）
著書に『アジアを読む』など多数。

古代の人たちはどのような夢想をしていたのだろうか。本書は、夢と身体を巡る東洋文化論である。第一章では、「美人」についての論考があるが、日本と中国における美人の条件や容貌の違いのみならず、文化的、歴史や政治の中で果たす役割の違いなども存在するという。

講談社（講談社現代新書　2297）

ニッポンの裁判

瀬木 比呂志著　2015年1月　本体840円



せぎ・ひろし
（法科大学院専任教授）
著書に『リベラルアーツの学び方』など多数。

本書は、官僚的、役人的な裁判所、裁判官によって生み出される裁判のあり方とその問題点について、具体的な事例を用いて論じる。また、本書は、国民が司法の機能とその実態を知り、継続的に監視するとともに、司法を国民のためのものとしてゆくために必要な知識と視点を提供する。

創英社/三省堂書店

フランスの他者
―コミュニケーション思想とジェンダー―

木村 信子著　2015年4月刊　本体2,500円

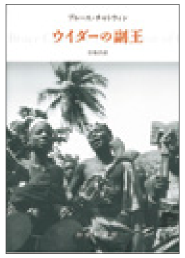
きむら・のぶこ
（文学部兼任講師）

本書は、フランスで試行された「他者」に関する問題をいくつかの視点から探り、まず出発点として、他者とコミュニケーションの問題にアプローチした。また、他者の問題を基軸にコミュニケーション思想を捉え、ジェンダー問題との関連性を探り、さらに日本の場合について考察する。

みすず書房

ウイダーの副王

ブルース・チャトウィン著　旦 敬介訳　2015年5月刊　本体3,400円



だん・けいすけ
（国際日本学部専任教授）
著書に『旅立つ理由』など多数。

小説の主人公フランシスコ・マノエル・ダ・シルヴァは、ブラジルでの生活に見切りをつけ、27歳のときに大西洋を渡り、西アフリカで奴隷商人となった。彼は、ダホメー王から「ウイダーの副王」という肩書きを与えられた。彼は巨万の富を築き、権勢を振るったが、長くは続かなかった。

弘文堂

労働協約法

野川 忍著　2015年5月刊　本体6,500円

のがわ・しのぶ
（法科大学院専任教授）
著書に『労働法原理の再構成』など多数。

長期不況とグローバリゼーションの影響は、雇用の非正規化の拡大、労働組合の低迷などを招き、労働関係の深刻な弱体化をもたらした。本書は、雇用社会と労働法制の法的基盤を形作る機能を持つ労働協約を体系的に論じ、労働協約を基軸とした労働関係と労使関係の法的構築を論究する。

※所属・肩書きは著書発行時のものです。

明大教職員・校友の

刊行物案内 -Information of the Publication-

金星堂

英語定冠詞とコピュラの意味論

―背後に潜む自然数概念―

岩崎 永一著　2015年10月刊　本体1,500円

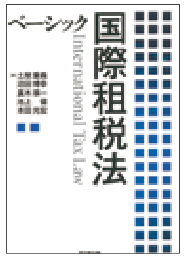
いわさき・えいいち
（経営学部兼任講師）

英語における定冠詞の問題とコピュラを関連させた研究書である。コピュラとは、文の主語とその後に置かれる語を結ぶための補助的な品詞である。本書では、一般的な定冠詞の説明から脱却し、ネイティブの言語直感にまで迫る。更にその背後に潜む意味レベルにまで論及する意欲作である。

同文舘出版

ベーシック国際租税法

沼田 博幸、池上 健ほか著　2015年10月刊　本体2,200円



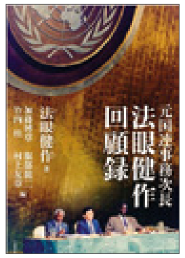
ぬまた・ひろゆき
（専門職大学院会計専門職研究科専任教授）
いけがみ・たけし
（専門職大学院会計専門職研究科専任教授）

本書は、国際租税法について基本的な理論と構造を体系的に理解するための、初学者向けの入門テキストである。そのため初学者の視点に立ち、国際租税法の主要な制度について、その制度制定の趣旨や背景、要点などをわかりやすく解説する。さらに各章のコラムには最新の論点を紹介する。

吉田書店

元国連事務次長 法眼健作回顧録

法眼 健作著　竹内 桂ほか編　2015年10月刊　本体2,700円



ほうげん・けんさく
（元国際連携機構客員教授）
たけうち・けい
（政治経済学部助手）

本書は、元国連事務次長法眼健作氏の8回にわたるインタビューをまとめたオーラルヒストリーである。法眼氏は、外務省入省後、中近東アフリカ局長、国連事務次長、カナダ大使など要職を歴任した外交官である。法眼氏が語る日本外交、国連、国際関係などは示唆に富み、興味深い。

沖積舎

シュルレアリスム、その外へ

鶴岡 善久著　2015年10月刊　本体3,500円

つるおか・よしひさ
（文学部卒）

本書は、瀧口修三のシュルレアリスムの精神を引き継いできた著者による芸術論集である。瀧口は美術評論家であり、日本におけるシュルレアリスムの理論を支えてきた。著者は彼と出会い、生涯にわたって大きな影響を受けた。本書では、シュルレアリスムの外側に目を移した論考を多数収録する。

河出書房新社（河出文庫い-12-2）

真田忍者、参上！

―隠密伝奇傑作集―

末國 善己編　2015年11月刊　本体730円

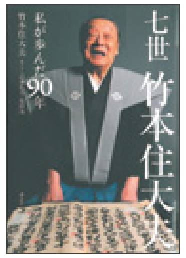
すえくに・よしみ
（校友）

2016年NHK大河ドラマは、戦国時代の名将、知将として高く評価される真田幸村を主人公とする「真田丸」である。本書は、柴田錬三郎、山田風太郎など名手6人が描く、幸村に関係する忍者、猿飛佐助、霧隠才蔵らが活躍する忍者小説、伝奇小説の短編六作をセレクトしている。

講談社

七世 竹本住大夫 私が歩んだ90年

竹本 住大夫著　高遠 弘美、福田 逸聞き手
2015年11月刊　本体2,200円



たかとお・ひろみ
（商学部専任教授）
ふくだ・はやる
（商学部専任教授）

七世竹本住大夫は、2014年に68年間におよぶ文楽の大夫人生に惜しまれながら幕を下ろした。本書は、住大夫の少年時代、青年時代、修業時代、円熟の時代に分け、努力で遅咲きの栄光を極めるも、過労から病に倒れ、引退を決心するまでの貴重なオーラルヒストリーの記録である。

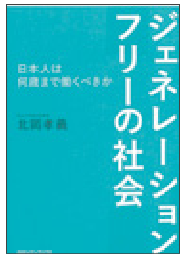
※所属・肩書きは著書発行時のものです。

CCCメディアハウス

ジェネレーションフリーの社会

―日本人は何歳まで働くべきか―

北岡 孝義著　2015年7月刊　本体1,600円



きたおか・たかよし
（商学部専任教授）
著書に「アベノミクスの危険な罠」など多数。

少子高齢化問題を抱え、日本の公的年金制度は危機に瀕している。これから日本は、否応なしに国民全員が働かざるを得ない社会となっていく。老いも若きも国民全員が働く「ジェネレーションフリー」の社会は、世代間扶養の社会ではなく、国民全員で支えあう相互扶養の共生社会である。

白帝社（白帝社アジア史選書　012）

世紀末イスタンブルの演劇空間

―都市社会史の視点から―

永田 雄三、江川 ひかり著　2015年7月刊　本体1,800円

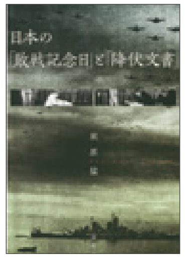
ながた・ゆうぞう
（元文学部専任教授）
えがわ・ひかり
（文学部専任教授）

本書は、19世紀末のイスタンブルの演劇を、当時の政治、社会状況の中で紹介する。19世紀末から20世紀初頭のイスタンブルが、パリ、ロンドンなどヨーロッパ諸都市の西洋近代演劇を受容する姿を、歴史的背景を交え、当時上演された演劇のポスター及びプログラム資料を軸に論考する。

論創社

日本の「敗戦記念日」と「降伏文書」

萩原 猛著　2015年8月刊　本体1,800円



はぎわら・たけし
（文学部卒）
著書に『上海今昔ものがたり』など多数。

1945年9月2日、「ポツダム宣言」を踏まえ、アメリカ艦艇ミズーリ号において「降伏文書」の調印式が行われ、15年にわたる戦争は終結した。こうした史実を知らない若者が増えた。グローバル化が進む上で、日本や世界の近現代史を正しく理解し、再確認することは重要である。

明治大学出版会（発行）　丸善（発売）（明治大学リバティブックス）

映画のなかの御茶ノ水

中村 実男著　2015年9月刊　本体3,300円

なかむら・みつお
（商学部専任教授）
著書に『都市交通の世界史』など多数。

御茶ノ水界隈の風景は、これまで多くの文学作品などに取り上げられてきた。しかし、多くの日本映画に御茶ノ水の風景が登場していることは残念ながらあまり知られていない。映画には、ニコライ堂、御茶ノ水駅など御茶ノ水界隈を代表する風景が映し出されているという。

ミネルヴァ書房（MINERVA歴史・文化ライブラリー 27）

ブロンテ姉妹と15人の男たちの肖像

―作家をめぐる人間ドラマ―

岩上 はる子ほか編著　江﨑 麻里ほか執筆
2015年9月刊　本体3,800円

えさき・まり
（文学部兼任講師）
著書に『イヴリン・ウォー』など多数。

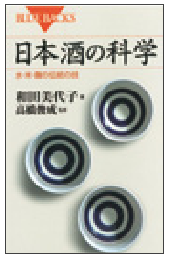
シャーロット、エミリ、アンのブロンテ三姉妹は、ヴィクトリア朝の作家であり、代表作「ジェイン・エア」「嵐が丘」などは今もなお読み継がれている。本書は、ブロンテ三姉妹の人生あるいは作品について、「男」という切り口からアプローチを試みる。

講談社（ブルーバックス　B-1935）

日本酒の科学

―水・米・麹の伝統の技―

和田 美代子著　高橋 俊成監修　2015年9月刊　本体1,080円



わだ・みよこ
（文学部卒）
著書に『声のなんでも小事典』など多数。

10月1日は「日本酒の日」である。なぜこの日なのか諸説あるが、10月は新米で新酒が造られ始め、春先に造られたお酒が熟成して飲み頃となる「秋あがり」の時期を迎えるからというのも理由のひとつである。本書では科学的な視点を中心に、身近な日本酒をわかりやすく解説する。